

---

# 魔界の扉を叩くとき

KINU KAZU

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔界の扉を叩くとき

### 【Nコード】

N9520W

### 【作者名】

K I N U    K A Z U

### 【あらすじ】

蒼空は魔界の扉を叩く。その時、物語は動き出す。

キヤッチ

フレーズ(?) 的なのはこんなのです。主人公は武術の心得が少しだけある、どこにでもいる普通の高校生です。しかし、蒼空は封印を解いてしまう。そこには勇者と魔王が封印されていた。蒼空は魔王を倒すために勇者と、魔界へ。

これは僕の『魔界大戦』の改変ver.です。より良くしようと書

きました。その分、話は全く違ってきてます。なので魔界大戦を読む必要はありません。一部設定を残し、話を進めます。魔界大戦を読んでくださっている方、良ければ見てください。キャラも増えます。魔界大戦を良くしようとした作品ですが作者の自己満足に終わる可能性があります。そうなるのは嫌なので、色々アドバイスください。辛口コメントでも大歓迎です。

## 第一話 夢（前書き）

K I N U   K A Z U と申します。

まずこの作品についての話をしたいと思います。

この話は僕の『魔界大戦』の改変 ver . となります。

設定を一部流用。そして別の話にしていきます。

全く別とはなりません。いろいろ変えます。

『魔界大戦』は読まなくても問題ありません。

『魔界大戦』を読んでくださっている方でも楽しんでいただける作品にしたいと思います。

『魔界大戦』の改変 ver . ですが、話の進め方とかは全く別だし、キャラ増えているので、『魔界大戦』はそれはそれで完結させます。

この作品は『魔界大戦』をよりよくしたいと思う作者の気持ちから始めました。

こうした方がいいかも……。ここをこうすればよかった。そう思う事が多々あったので。

しかし、別によくなくなっていなくて、作者の自己満足になっている場合は言って頂くかスルーしてください。

こうした方がいいというのがあればお願いします。

では、お願いします。

## 第一話 夢

「もう、これしかない、俺ごと封印しろ？」

金髪で顔もかなりいい、戦闘服に身を包んだ男が少し後ろを振り返りながら叫ぶ。

だがそれも一瞬のことで、すぐに前の黒い服を身を包む男に向き直り、剣を振るう。

黒い服に身を包んだ男も応戦し、剣と剣がぶつかり、火花を散らし、音を響かせる。

すごい……。そう声を上げるしかない。

黒い服の方の剣はかなり長く2mはあるだろう。そして剣はどこか禍々しい。

その剣を全く剣に振られることなく扱い、攻撃をしている。

金髪のイケメンの剣はどこか神秘的で西洋風の剣だった。長い剣は小回りが利きにくい。その利点をうまく利用して色々な角度から攻撃を繰り返していた。

武術を、剣術をやっている蒼空。しかし、そんなことはまず無理だろう。そう思わせる次元の戦いだった。

剣の応酬が続く中、

「早くしろ？ この期を逃すと……世界は終わる？」

金髪の男が叫ぶ。すると黒い服に身を包んだ男が焦ったように剣を振り下ろし、叫ぶ。

「我を封印などできるはずがないだろう」

「なら、何を焦る？ 真地、やるんだ。世界の平和を勝ち取り、消える。それは本望だ。やれ？」

そう金髪の男が叫ぶと、後ろに居た戦闘服を纏ったもう一人の男が、顔の造形もかなりいいその顔を涙でぐちゃぐちゃにしながら、「分かった」

それだけ言うと、一度、空を仰ぎ、何か唱えるように言う。

すると、ついさつきまでは良く見えなかったが、金髪の男と、黒い服を着た男の下の、魔方陣と思しきものが光り輝き、二人の男を包んでいく。

金髪の男はほっとしたような、そんな顔をし、黒い服に身を包んだ男は焦ったようなそんな顔になった。

「……………これで、最後だ。君のことは忘れない。世界の平和のために戦った、君のことを？」

名前のところはよく聞き取れなかったが、涙を浮かべた男が言い、何かを投げ入れた。その言葉と行動を見た、金髪の男は優しげな顔で頷き、

「ありがとう。……………やってくれ」

「ああ。……………天から降り注ぐ光よ。彼らを包み、永遠の眠りを与えよ」

そう唱えると、より一層、光が強くなる。

目も眩むほどの光が世界を包む。すると悲痛な、いや恨みがこもったドスの利いた声が響き渡る。

「我はこれで終わらぬ。必ず、必ず戻り、復讐を、世界を！……………手に入れる？」

その声が響き渡った後、光は薄らいでいく。そして光が完全に消え去り、視界が良くなった。

そこには先ほどまで戦っていた二人の姿はなく、一冊の本が転がっていた。

？ ？ ？

「ふあゝあ」

蒼空は欠伸をしながら目をこすった。

そして近くにある時計に目を向ける。時計が示す時間は5:00。高校二年生が夏休み初日に起きるには少し早い時間だった。

しかし、蒼空にとっては普通だった。

なぜなら蒼空は武術の心得があるから。こういつのは愈けるとす  
ぐにダメになる。

だから蒼空は早朝ランニングを日課にしているのだ。  
蒼空はベッドから降り、ジャージに着替える。

髪を整え、顔を洗い、まだ寝ているであろう家族を起こさないよ  
うに静かに外へ出る。

そして日課である早朝ランニングへと出かけた。

「ふっ、ふっ、ふっ」

軽く息を弾ませ走る。なぜか今日は体が重い。

「なんか、嫌な予感しかない……」

蒼空は呟く。こういつ時の蒼空の勘はよく当たる。

多少気が重いものの蒼空はランニングを続けた。

いつも通りの距離を走り終え、家の前に蒼空は着いた。

その時間は6:00丁度。

一時間近く走っていたことになる。

しかし蒼空は肩で息をしているものの、大して疲れた様子もない。

蒼空は玄関の扉を開け、

「ただいまー」

そう言い、家へ入る。

この家に住むのは自分を含めて四人。

父と母が起きる時間はだいたい6:30。

同じ学校に通うためにこの家に居候として来た従妹だけは丁度蒼  
空が起きてから少しして起きるようだ。

「おかえりー」

そう声がかかる。先も言った通り、この家に住む者の起きる時間  
は6:30。

つまりこの声は従妹のものだ。

従妹は蒼空の前まで来ると、

「今日もお疲れ様、お兄ちゃん」  
「そう言いタオルを渡してくる。」

「ああ、ありがとう」  
渡されたタオルで汗をぬぐう。

そして従妹と一緒にいつも通り他愛もない話をしながらリビング  
へと向かう。

そこにはお茶が用意されていて、

「水分補給しなよ」

「ん」

蒼空はそれだけ言うとコップを受け取りお茶を飲む。

いつもながら気が利くな。

「いつもありがとう。漣」

笑顔で言うと漣は少し頬を赤く染めた。

「どういたしまして」

漣は少しほほ笑む。

何故、漣は従妹なのに蒼空の事をお兄ちゃんと呼んでいるのか、  
最初からそう呼んでいたため気にしたことはほとんどなかったが、  
一度蒼空は理由を聞くことがあった。

そうすると漣は『気にしたらダメだよ。お兄ちゃん』と笑ってい  
た。

その姿は何故か優越感を漂わせていた。いったい、何にそう感じ  
ているのかは分からないが。

「お兄ちゃん、シャワー行く？」

「え、ああ。そうだな」

蒼空はタオルを置き、風呂へと向かった。

蒼空がシャワーを浴びてリビングへ戻ると、リビングにはみんな  
揃っていた。

「おはよう」

「おはよう、蒼空」

そう端的に会話が済まされる。

別に家族仲が悪い訳でもない、どちらかと言えばいい方だろう。ただど会話はそこまですることもないし端的だ。

「ああ、蒼空。爺さんがお前に修行に来るように言ってたぞ。夏休みの間、行つてきなさい」

「ええ！？ 貴重な休みが……」

「お兄ちゃんが行くなら私も行く」

「遷はいいんじゃないか？ 爺さんが言ってたのは蒼空だけで遷は言つてなかつたし」

「でも、私も一応おじいちゃんの弟子だし、悪い虫がお兄ちゃん付いたらダメだし……」

「なんか言つた？」

「何も言つてないよ、お兄ちゃん」

遷は笑顔でそう返す。

「はあ。変な予感はこちらか……」

ガツクリ肩を落として蒼空は言った。

何はともあれ夏休みは色々疲れそうだ。

## 第一話 夢（後書き）

もっとこうした方がいい。読みにくいなどあれば言ってください。  
辛口コメントも全然OKです。

たくさん感想、お待ちしております。  
気に入って頂ければ、続きが気になるなどあればお気に入り登録  
願います。

今日は9月25日。作者の誕生日です。  
言わってくださいると嬉しいですww  
では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9520w/>

---

魔界の扉を叩くとき

2011年9月25日03時10分発行